

令和元年度静岡県原子力防災訓練の結果報告



令和2年2月17日
危機管理部
原子力安全対策課

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに

1

1 原子力災害広域避難計画

目的：

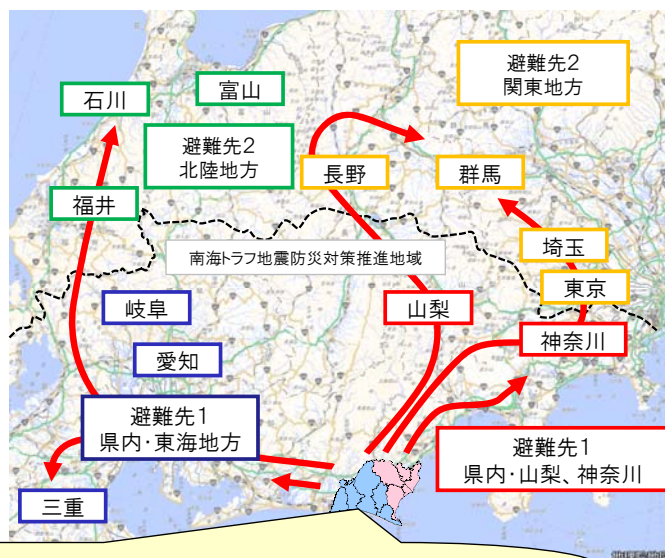
原子力災害発生時に、住民等の避難等を迅速・確実に実施するとともに、住民の被ばくを可能な限り低減し、安全を確保する

内容：

対象地域の住民等の避難、一時移転及び屋内退避の判断基準、避難先、避難経路、避難手段等

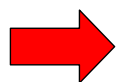
策定：

平成28年3月



- 原子力災害対策重点区域11市町の住民（約94万人）を避難計画の対象
- 対象住民について、原子力災害単独の場合（避難先1）、大規模地震との複合災害の場合（避難先2）の避難先をあらかじめ確保

避難計画の検証

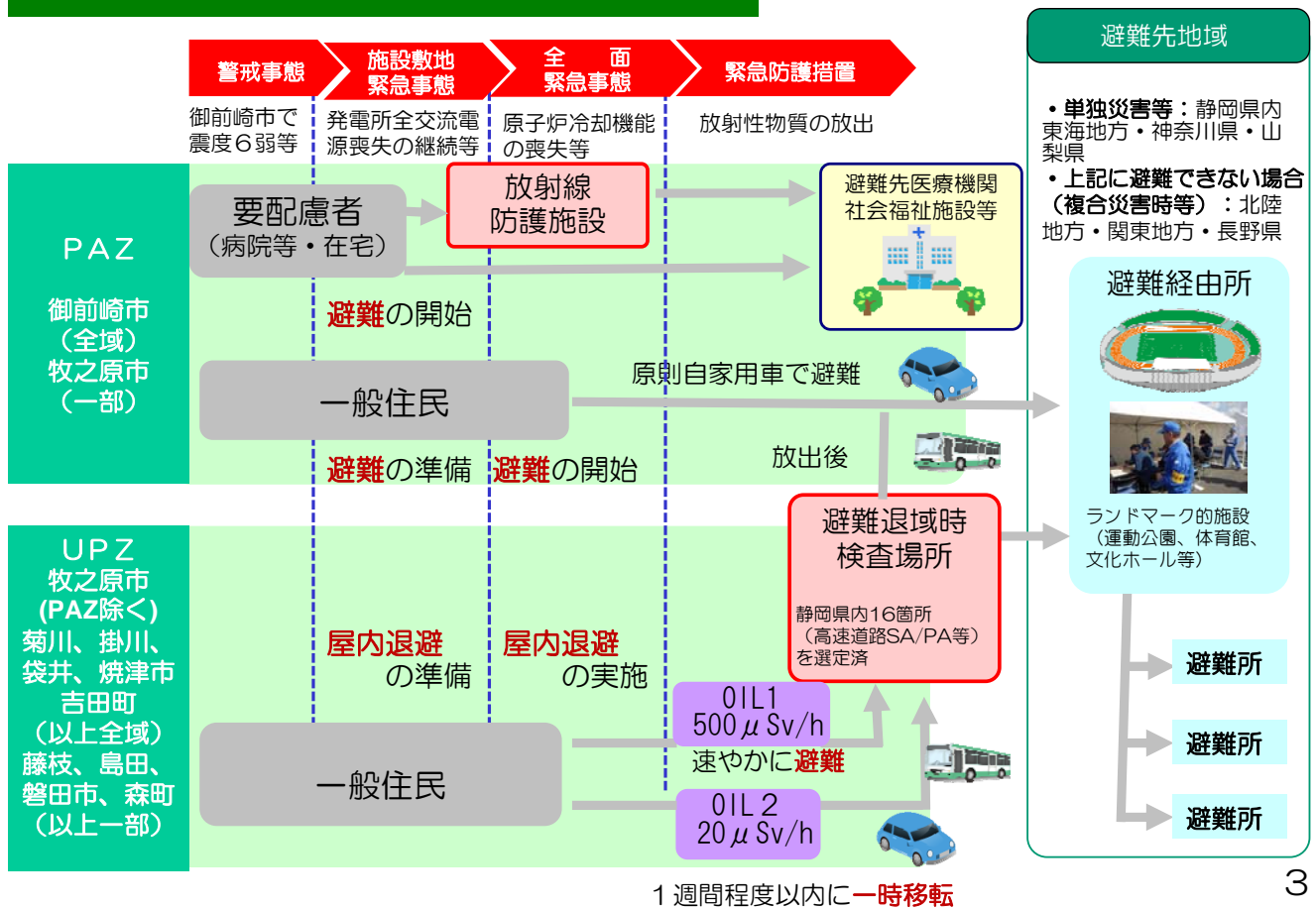


訓練の実施

富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに

2

2 広域避難の流れ



3

3 訓練の概要

図上訓練 令和2年1月28日(火) 午前9時～午後3時30分
原子力防災センター 他

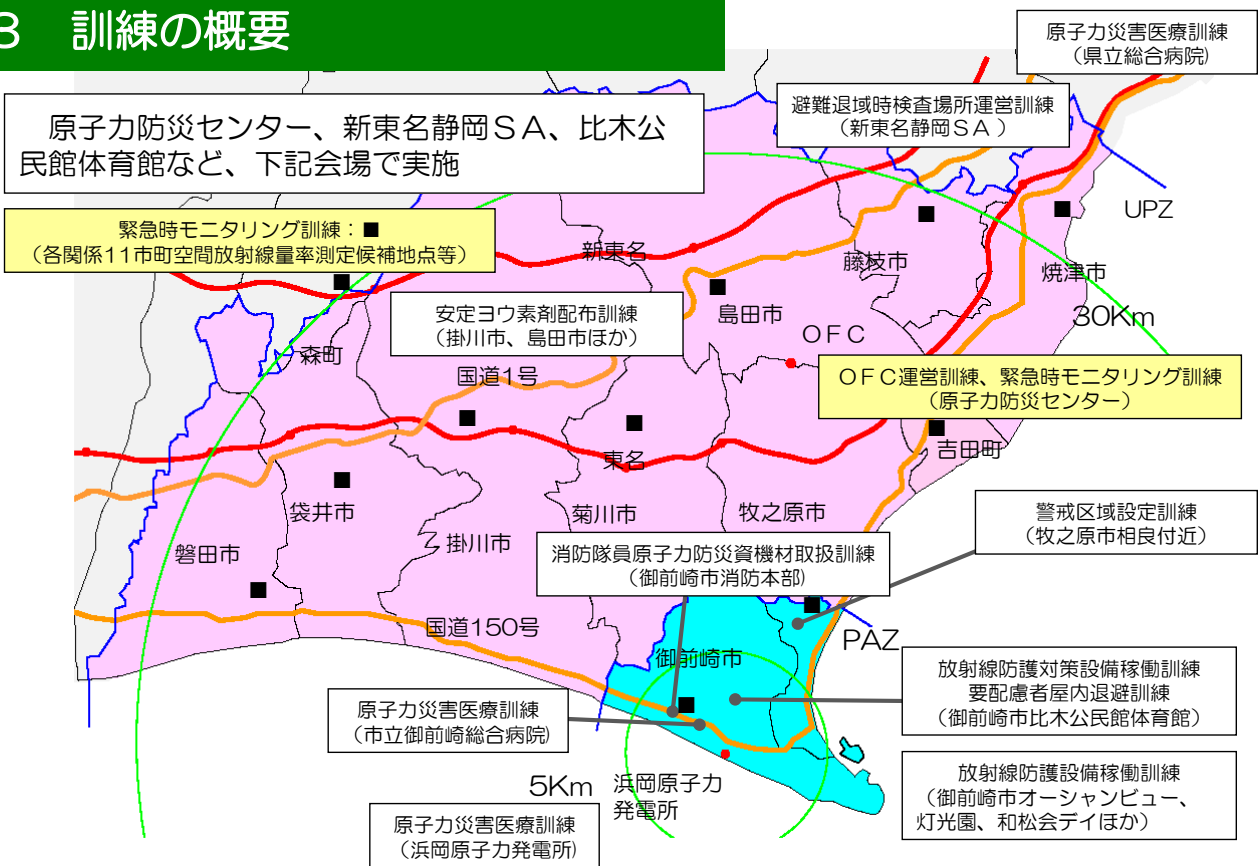
実動訓練 令和2年1月29日(水) 午前8時30分～正午
新東名静岡SA、比木公民館体育館(御前崎市) 他

- ・訓練参加者数：県、市町、国、関係業者等71機関 503人
住民 6市町 232人 計 735人
- ・他県等の視察者数：避難先の山梨県、岐阜県、石川県など71人

訓練の重点項目

- 原子力災害合同対策協議会・緊急時モニタリングセンター運営訓練
- 避難退域時検査場所の設置・運営訓練
- 放射線防護対策設備稼働及び要配慮者屋内退避訓練(新規訓練)
PAZ内等で整備した放射線防護対策設備(エアシェルター等)の展開訓練を実施し、原子力災害発生時のエアシェルター等の展開手順、要配慮者の避難や屋内退避等の手順の確認を行い、参加住民の理解を深める。

3 訓練の概要



富国有徳の理想郷—しずおか
ふじのくに



4 訓練状況（図上訓練及び避難退域時検査訓練）

●図上訓練 原子力防災センター（オフサイトセンター）



合同対策協議会（TV会議）



各機能班の活動

●避難退域時検査訓練（新東名静岡SA）



ゲートモニターによる車両検査



住民の検査

4 訓練状況（放射線防護施設への避難）

●福島第一原子力発電所事故において、要配慮者が十分な準備のない中で無理な避難を実施したために亡くなられた。この教訓を踏まえ、避難準備が整うまでの間、要配慮者等の被ばくのリスクを下げながら、安全に一時的な屋内退避を行なうための放射線防護施設を浜岡原子力発電所から10km圏内の地域に整備

●平成30年度に整備したエアシェルターを用い、放射線防護施設への住民避難訓練を実施

放射線防護対策を施した施設数

御前崎市	15施設
牧之原市	5施設
菊川市	3施設
掛川市	1施設

※体育館・公民館、社会福祉施設、病院、市役所等
※現在、3施設整備中



住民も参加したエアシェルター準備



エアシェルター内への避難

5 今後の取組

原子力防災訓練の効果

- オフサイトセンターにおける活動、原子力災害用資機材の取扱訓練
⇒要員の災害応急対応の習熟
- 避難先自治体、実動機関の訓練参画
⇒関係機関相互の連携協力体制の強化
- 訓練への住民参加
⇒広域避難計画に対する住民理解促進

今後の取組

ハード、ソフト両面から広域避難計画の実効性を向上

- 避難先と連携した訓練の実施
⇒避難先自治体の理解促進、顔の見える関係の構築
- 原子力防災資機材倉庫の常設設置、車両検査自動化システムの実用化
⇒避難退域時検査の迅速化の実現

